

2003年

・「時のデザイン」をテーマに日仏景観会議開催

2004年

- ・NPO法人彦根景観フォーラム設立。理事長に山崎一貴が就任
- ・ふらっと彦根 歴史発見とまち歩き
- ・古民家実測調査、古民家データベースづくり
- ・星空映画祭「青い山脈」

2005年

- ・街の駅「寺子屋力石」オープン
- ・彦根景観シンポジウム「世界の城下町彦根を指して」
- ・星空映画祭「南あるが」
- ・ふらっと彦根 彦根の歴史を学ぶ
- ・情報誌「きらっと彦根」創刊

2006年

- ・ひこね街の駅「寺子屋力石」談話室
(それぞれ彦根物語) 開始 (2013年4月まで100回)
- ・冊子「町家に住む一建築技術活用」発行
- ・防災・耐震・まちづくりフォーラム (安全・安心、まちの継承、将来像) (計4回)
- ・書籍「彦根歴史散歩過去から未来をつむぐ」発行

2007年

- ・彦根道びつ(南・西山、高宮町、天守等で巡遊など)
- ・冊子「100年前に描かれた彦根」発行
- ・彦根景観シンポジウム「世界遺産とは」
- ・星空映画祭「たそがれ道場」
- ・耐震補強工事 ひこね街の駅「寺子屋力石」
- ・町家実測調査 辻事務所彦根景観設計3回
- ・彦根景観シンポジウム「世界遺産を指す彦根の課題」
- ・辻事務所・彦根景観保全の基金活動「彦根古民家再生トラスト」の開始

2008年

- ・第1回彦根・辻事務所シンポジウム (計2回)
「定礎辻事務所の再生と活用を考える」
- ・辻事務所・彦根景観保全の基金が集まり、市による購入、市民運営の方針がまとまる
- ・多賀「彦根」シンポジウム「一園内見聞と多賀「彦根」が指すもの」
- ・多賀「彦根」の駅「野島市集い」(2018年3月まで106回)
- ・実測調査 多賀彦根一園内見聞 (計4回)
- ・歴史・景観・まちづくりフォーラム「彦根歴史まちづくりデジタルアーカイブ事業について」
- ・彦根景観シンポジウム「彦根生活」開始 (2024年4月まで92回開催中)
- ・古文書調査 (多賀彦根の駅一園内見聞)
- ・彦根古民家再生トラスト解散

2009年

- ・冊子「彦根の歴史と善利屋敷(1) 一定礎辻事務所と古民家再生トラスト運動」発行
- ・冊子「彦根城跡400年展を盛り上げた人々」発行
- ・彦根景観シンポジウム「世界の城下町彦根の未来まちづくり」
- ・民俗調査 (一園内見聞の調査、橋はがき調査)
- ・建物調査 (一園内見聞の調査、橋、年代調査)

2010年

- ・一園内見聞家レストランぶちOPEN
- ・「一園内見聞の歴史」展
- ・彦根景観シンポジウム2010「彦根・彦根地区のまちづくりを考える」

2011年

- ・一園内見聞「古(いにしえ)の道具展」

2012年

- ・彦根景観特別公開(6軒〜7軒)以降毎年開催
- ・彦根景観シンポジウム「彦根のまちづくりに向けて」
- ・湯沢大町ルシェ (2019年まで38回)
- ・「彦根まちなみの保存事業」実証調査、データベース

2013年

- ・理事長に山崎一志が就任

2014年

- ・彦根景観シンポジウム「文化遺産を活かして住み続けられるまちへ」
- ・文化遺産を活かしたまちづくり研究会「防災景観コミュニティ」(2015年2月まで計3回)

2015年

- ・文化遺産を活かしたまちづくり研究会「まちづくり基盤」の作成 (2015年2月まで計5回)
- ・彦根景観シンポジウム「鎌倉に学ぶ、古い佇まいを活かした新しいまちづくり」

2016年

- ・冊子「彦根二丁まちなみ来物館」まちづくり委員会発行
- ・文化遺産を活かしたまちづくり研究会「彦根二丁まちなみづくり基盤の実現に向けて」(計4回)
- ・彦根景観シンポジウム「コミュニティデザインで進める城下町彦根のまちづくり」

2017年

- ・文化遺産を活かしたまちづくり研究会「築地防犯を考える」(2018年1月27日まで4回)
- ・西村商店街まちづくりワークショップ

2018年

- ・彦根景観シンポジウム「まちなみ保全と明治の美観家再建計画」

2019年

- ・河原町町町重伝建地区 修理修繕工事完成見学会
- ・明治建築「多賀」との第一園内見聞
- ・文化遺産を活かしたまちづくり研究会「防災拠点を考えて」(2019年11月24日まで計3回)

2020年

- ・河原町町町重伝建地区 修理修繕工事完成見学会
- ・多賀彦根の駅まち歩き体験ワークショップ

2022年

- ・クラウドファンディング「彦根景観バーチャル資料館」プロジェクト WEBサイトに動画9本を掲載
- ・文化遺産を活かしたまちづくり研究会「心地よいまちのデザインを考える」2023年8月まで計5回

2023年

- ・冊子「彦根スタイル」まちなみデザインガイド発行

2024年

- ・河原町町町重伝建地区にて、町家公開イベント実施



きらっと彦根

彦根の魅力★再発見



高宮大町 陸水会館

NPO法人彦根景観フォーラム 20周年を迎えて

彦根景観フォーラムが設立されたのは2004年8月の事です。彦根の保全と地域文化財の保存・活用を目指し、様々な活動を進めてきました(年表参照)。活動は大きく分けて情報発信、保存・活用、調査研究に分けられます。

情報発信活動としては、「ふらっと彦根」と物歩き町歩き、世界遺産や彦根の景観の在り方を伝えるシンポジウム、防災・耐震・まちづくりフォーラム、彦根・辻事務所シンポジウム、多賀「彦根」のシンポジウム、河原町町町重伝建建物保存地区選定2周年記念シンポジウム、歴史・景観・まちづくりフォーラムなどを開催し、多岐にわたるテーマを取り上げ、情報発信をおこなってきました。さらに、通常は公開されていない定礎屋敷の特別公開や、河原町・町町地区の町家公開イベントを実施し、彦根の伝統的民家のありのままの姿を公開してきました。

また、「町家に住む一建築技術活用」、「彦根歴史散歩」、「100年前に描かれた彦根」、「彦根の歴史と善利屋敷(1)」、「彦根二丁まちなみ来物館」(まちづくり基盤)、「彦根スタイル」(まちなみデザインガイド)などを発行し、また、定期的に情報誌「きらっと彦根」を発行してきました。

このほか、クラウドファンディングを利用して「定礎屋敷バーチャル資料館プロジェクト」の資金を確保し、動画を制作し、webサイト「彦根景観定礎屋敷バーチャル資料館」を開発し、インターネット上での情報発信を進めてきました。

保存・活用活動としては、「寺子屋力石」の耐震補強工事、ひこね街の駅「寺子屋力石」の再生と、談話室「それゆけ彦根物語」(計100回開催)の増設としての活用、辻事務所・彦根景観保全の基金活動「彦根古民家再生

トラスト」・定礎辻事務所「彦根生活」(計92回開催中)、多賀「彦根」の「野島市集い」(計106回開催中)などを実施してきました。また、所有者がら譲り受けた古民家を民泊施設「多賀さとの宿(一園内見聞)」に改修し、持続可能な古民家の保存・活用の方針を実践的に探ってきました。このほか、多賀町集いの基盤として、まち歩き彦根ワークショッパも実施しました。

調査研究活動としては彦根に残る古民家の実測調査やその保存状況のデータベースの作成、多賀彦根一園内見聞の建築物の実測調査、古文書調査、民俗学調査や、「彦根地区歴史のまちなみの保存・再生に係る事業」(空き家調査・データベース作成・防災広場等研究)を実施してきました。

この20年を振り返ると、情報発信、保存・活用、調査研究と一介のNPO法人としては、多岐にわたる活動を実施してきたのだと思います。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、月に一度の定例会すら開催できなかった時期もありましたが、なんとか活動を継続することができました。

彦根の保全と地域文化財の保存・活用を目指す彦根景観フォーラムにとって、喫緊の課題は空家の増加と、空家等の解体の促進としての空地化、駐車場問題があげられます。近・現代建築の休廃空地化、大きな課題となりそうです。また、組織の内部の問題ではありませんが、長期にわたる課題として、会員の高齢化と会員の減少があげられます。これらでも、何らかの課題に上りましたが、有効な打開策を見出せておらず、喫緊の課題となったままです。いささか多岐な前進を見ますが、皆様のご協力を得て少しでも良い方向に持っていきたいと考えております。

(彦根景観フォーラム理事長 山崎一志)



彦根

NPO法人彦根景観フォーラム 20年の歩み

(2004年～2024年)

発端は日仏景観会議

日仏景観会議は、景観に対する意識の向上・優れた景観の形成を目的に、日本と仏が国際的視野にたって議論するものです。滋賀県に奉迎して間もない2002年の夏、会場に協力していた山崎彦根主催の要請がありました。

彦根の歴史を知り景観を議論する良い機会だと思っ方、彦根に来たばかりで勢揃いづくりに不安がありました。滋賀大・南大学の学長、知事・市長に相談したところ、バックアップするということになり、意を決して、岡大・南・彦根市・岡工芸館・観光協会・建築士会等有志で実行委員会を組織し準備を進めました。

テーマは「時のデザイン」、2003年9月23日・24日の両日会議を開きました。初日は彦根のまち形成史論とまち歩き、2日目は仏の景観形成の実践解説と参加者同士の意見交換でした。議論を経て、「未来に向けた彦根宣言」を発表しました。

会議の最後は「市民・行政・専門家・企業等による永続的な実行組織の設立」とありました。実行しなければ宣言を出す意味はありません。この会議の実行委員会が永続組織に移行して実現すべしとなり、これが会議参加者の集約の意志となったのです。

早速、法人認定を得て、2004年8月に「NPO法人彦根景観フォーラム」が発足しました。以来、景観形成活動に取り組み今年で20年になります。(彦根景観フォーラム名誉管理 山崎一貴)



ぶらっと彦根 (2004)



足軽屋敷特別公開 (2023)



野鳥の森の植物観察会 (2009)



ぼんがら餅づくり (2009)



さとの宿・鍋料理 (2024)

一圓屋敷は

「星の駅」から「さとの宿」へ

一圓屋敷のある滋賀県大津市彦根は、彦根市の東南、鈴鹿山系の北側に位置し、人口は約7,000人の山荘です。2008年に一圓屋敷にNPOに数人が賛同されました。星敷は、江戸後期の庄屋屋敷の跡を残し、近江の美事、古い建築様式がわかる建物であることから、彦根のまちづくりに活用できないかということで、模索が始まりました。

はじめの10年は、多賀町有志の「多賀クラブ」によって運営しました。一ヶ月に一度、星敷を公開する「星敷市と集い」をしたり、「野鳥の森の植物観察会」や農業レストランを開催しました。この間に、一圓屋敷は地域の有形文化財となり、農業レストランは「地産地消のメニューコンテスト」で農林水産大臣賞を受賞しました。本場に高く評価された日でした。

しかし、第160年の建物は、次々という人が壊れることが続きました。小さな修理では限界がきてしまいました。大規模な修理が必要となったことから、「合同会社さとの宿」を設立し、総務省の支援を受け、改修工事を行い、2019年に宿泊施設として再オープンしました。民泊としての運営と「星山自転車さんぽ」というボタリング事業の2本立てでの再出発です。

「星山にたずむる庄屋屋敷でゆっくりした時間とおいしい朝食」をうたい文句に今日もがんばっています。

(多賀さとの宿一圓屋敷マネージャー 江尾美子)



多賀さとの宿一圓屋敷 (2019)

花しようぶ通り 街の駅、重伝建、小江戸彦根 時の回廊へ

城下彦根の中心部に位置する花しようぶ通り商店街は200年を超える伝統的商店街もあり城下町特有の風情や町並みも多く残っています。商業エリアの市部外へ移転するドーナツ現象により取り残された商店街となりましたが、1996年より若手商店主を中心とした組織改変を機に活発な活動が出来る組織形態となりました。一年間の私立大学とのフィールドワークによる城下町リネンサンスの再生振興を目標に掲げた取り組みとしてふるくもあたらしい心を持つやさしい街づくり「ふるあたらしい街 花しようぶ通り」としました。

1998年中心市街地活性化法によるファースト整備事業の完成後、実践的なコーディネート組織「NPO法人彦根景観フォーラム」との協働による協議室「それぞれの彦根物語」から地域のエキスパートが参画する「LLPひこね街の駅」が組織されました。まちのプラットフォーム「LLP街の駅構想」や市内3大学の学生と共に開催する「アートフェスタ彦根」など数々の自主的・自発的な商店街及び地域振興の促進を行っています。

2013年地域住民の手による歴史の景観を守り伝える組織として「河原町町民美しいまちづくり委員会」を組織し2016年9月25日に伝統的建造物群保存地区に認定を受けました。2024年末には新規及び修復修繕建造物は延べ16件になります。今後は街路施設と共に地域ブランドの確立に取り組み、JR彦根駅-彦根城-キャッセルロード-足軽屋敷-河原町町民伝統的建造物群保存地区-芹川町の「小江戸彦根 時の回廊」の一翼を担いたいと思います。(LLPひこね街の駅 小村弘弘)



アートフェスタ彦根会 (2024)



ひこね街の駅手元石 (2005)



彦根市オープニング (2014)



それぞれの彦根物語 (2007)

足軽組屋敷の保存から 文化遺産を活かしたまちづくりへ

2007年、彦根地区に残る「足軽組屋敷・辻番所」の売却の意向が伝わりました。その後市街による買収を阻まれた「トラスト建物」がきっかけで、彦根市による買収と文化財指定、解体解体修理が実現しました。住民にも行政にも、足軽組屋敷のまちを大事に活かしていこう・・・という機運が生まれた瞬間でした。

江戸時代からの町割りがそのまま残り、足軽組屋敷も現存する地域ですが、高齢化が進み空き家が増え、防犯などの課題も多く抱えています。この歴史的な文化遺産を活かす、安心して気持ちよく暮らせる魅力的なまちを目指し、2017年、「彦根二丁目まちづくり憲章」が制定されました。

「まちづくり憲章」をもとに、防災や様々なコミュニティ活動、空間問題の取り組みが始まりました。移住希望者を迎入れる体制も整えられ、まちの魅力を感じて移住者も増えてきています。また、防災に関しての地元の熱心な取り組みが認められ、辻番所の空き家を防災広場として整備する工事が彦根市によって進められています。また、2023年には、「まちなみデザインガイド」を完成しました。心地よいまち並みを目指して、家を建てたり改修したりする場合のヒントとなるような冊子となっています。

最近では、テレビやラジオ、新聞などに取り上げられることが増え、「イケてまち」の一つになってきていると感じます。

(彦根景観フォーラム 笠原啓史)



デザインガイドづくりワークショップ (2023)



辻番所サロン (2008)



旧彦根足軽組屋敷
バーチャル資料館 (2022)